

ニーズレター

発行日 2018年 11月22日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川



.....

もくじ

- | | |
|--------------|---|
| ○ 副理事長巻頭言 | 2 |
| ○ 新理事の紹介 | 3 |
| ○ 退院サポート | 4 |
| ○ 事務局からのお知らせ | 5 |
| ○ 編集後記 | 5 |

巻 頭 言

香川の精神保健福祉を考える会から21年 ～グループホームは増えたけど～

副理事長 鍋谷 健一

1997年に「ポストの数ほどグループホームを」をスローガンにして誕生した「香川の精神保健福祉を考える会」（グループホームネット香川の前身はこの名称で活動していました）は、社会的入院の解消を目標にグループホーム活動を行ってきました。当時、当会を含めて、2～3団体が精神科グループホームを運営しており、利用者数で40～50人くらいでした。

21年たって、現在香川県では40団体が100を超えるグループホームを運営し、860人余りの定員を有する障害者用の住まいが提供されています。そのうち精神障害者が利用できる部屋は580余りあるようです。ポストの数には届きませんが、グループホーム数では香川県の郵便局数210余の約半分まで漕ぎ着けたようです。

他方で、社会的入院はどうなったのでしょうか。2004年に7万2000人いると言われた社会的入院者は10年後の2014年にも減少しなかったようです。同年、厚労省は1年以上の入院で退院可能な患者を18万5000人と見積もり、2018～2020年までに14万6000～15万7000人に減らそうと計画しています。（いつの間にか「社会的入院者7万人」というフレーズはなくなりましたが）

そういう中、昨今の社会的弱者に対する国や自治体や政治家による言動が世間を騒がせています。生産性の有無で人を評価するような某国会議員の発言や国や自治体による障害者雇用率の水増しなどの問題です。四国4県は障害者雇用の障害者枠に精神障害と知的障害を含めていません。

現実には、誰一人として無用な人などいないことは周知の事実であるにも関わらず、あたかもLGBTや障害者が社会的にはお荷物であるかのような風潮が今また作られようとしているのでしょうか。

戦後、私たちの社会は、個人的自由と社会的公正の両方を求めて動いてきました。ところが徐々に社会的公正が退けられ、社会的公正を保障する公益事業（電気通信、交通運輸など）、社会福祉給付（公共住宅、教育、医療など）、公共機関（大学、研究所、刑務所）の民営化＝私有化、商品化が行われてきました。これを新自由主義的政策と言うそうです。人間を生産性という尺度で測るのもその表れです。



社会的公正が壊れていく中で社会的連帯も壊れていきました。その社会的連帯を後ろ向きに再構築したのが新保守主義という考え方でした。新保守主義は古典的な家族観や道徳を重視し、新しい社会運動（フェミニズム、同性愛者の権利、積極的差別解消政策、環境主義など）を敵視します。必然的に障害者や社会的少数者が排除されます。

排除は孤立を生みます。社会的孤立を避けるために私たちは助け合って生きていかななくてはなりません。その1つがグループホームだと思います。グループホームさえ出来れば問題は解決するなどとは誰も考えてはいませんが、グループホームは増えたけど、生きづらさは変わらないと言われないような環境をどう作り上げていくのか、20年過ぎた私たちに課せられたテーマだと思います。



■ 新理事の挨拶

理事 河野 幸子

先の総会にて、理事に承認されました河野です。

現在、ホームワーカーとして百間町にあるグループホームを担当しています。前任者の方からバトンを受け取り6年。当初、バトンはとても重くすぐには走り出すことができませんでしたが、入居者からの声援、そして法人の方々を支えられ今、走り続けています。

入居者の方達は、何を食べ、どんな服装をして、どのような過ごし方をするのか、すべてを自分で選択し生活しています。その「空間」そして「生活の場」を見守るホームワーカー。喜怒哀楽を共にし、時には話し合い、ほどよい距離をとりながら…。地域で暮らすことに特別なことは何もありません。そして、それを教えてくれたのは入居者の方達です。このことが日々の関わり、支援につながっているのだと常々感じています。

当法人では、月に1回理事会を開催しています。これまで数回参加させていただきましたが、利益を追い求めるだけの会ではなく入居者の人権や生活を最優先し、運営に関する議論が常に交わされています。理事の方々のお話を聞いているだけでも勉強になります。まだまだお役に立てそうにはありませんが、理事会に現場の声を届けていけたらと思っています。

今後とも、よろしくお願ひします。

日々の支援体制について

退院サポート

ホームワーカー 西本 洋子

入院経験のある入居者の話を聞くと、入院生活の中で「退院したら何をしようか、どんな生活をしようか」色々考えるそうだ。やりたいこと、買いたいもの、会いたい人。グループホームを卒業し、一人暮らしをしてみようかという人もいた。その様な中で、イツキさん（仮名）も色々と思うところがあったようだが、退院後はグループホームで生活すると決めた。「グループホームに帰ることを楽しみにしている」と何度か電話を頂いた。入居者の皆さんを気遣う言葉もあった。穏やかなやさしい声だったが、強い意思を感じた。

退院に向けて動き出した。お見舞いや関係者会（本人と支援者が集う会）の時に、これからの生活について、イツキさんは自身の言葉で語ってくれた。思い描く未来を共有できるようになったことで、私はその思いを受け止めたいという気持ちが強くなっていった。

イツキさんが退院後、安心してグループホームで生活を送るために、私たちは何をすべきか。スタッフとして不十分だった点をどうしたらいいのか。私自身もグループホームに関わる方々に相談しながら、またアドバイスをもらいながら一緒に考えていった。ご家族の協力を得て、何度か外出や外泊を行ったタイミングで、まずはイツキさん・ご家族・スタッフで話し合いを重ねた。また別の日には主治医と三者とで顔合わせもした。今後の生活や医療についての希望をイツキさんから直接伝えることで、自分の意思であると皆に分かってもらうことができた。イツキさんの人生はイツキさんが主役であり、支援する側は、主役の思いに寄り添うという姿勢を、いつも大切に思っている。だからこそ必要な過程だった。共通理解のもと、皆と一緒にスタートラインに立った。そして皆でイツキさんの退院後の生活を見守っていくことになった。

この経験を通して、退院サポートにおける大切なポイントを、たくさん発見することができたと思う。一番心に留めておきたいと思ったのは「退院サポートは入院した時から始まっている」こと。お見舞いに行き、直接会って話をしていく中で、その人の思いをより深く知り、退院後の生活をイメージしながら形にしていく。退院に向けての大切な準備期間となるからだ。イツキさんのように本人の意思を自由に表現できる環境を作っていくこと、チームで取り組むこと、等々・・・。

イツキさんのグループホームでの生活が、再び始まった。共同部屋は今日もお互いのふれあいがあり、明るく楽しい空間が広がっている。

事務局からのお知らせ

正会員・賛助会員を募集しています

新規入会も随時受付しています。入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。手続きのご案内をいたします。

- ご入会いただいた方には、機関誌「ニーズレター」(季刊)をお送りし、またホームページの会員ページへにログインできるようになります。不定期ではありますが、会員の方が参加可能な研修も開催する場合があります。
- 正会員の方には、総会での議決権がございます。総会開催の2週間前までに郵送にてご案内をお送りします。

正会員 3,000円 賛助会員 2,000円

【百十四銀行】 中央市場支店 店番 213
普通預金 0252017
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

【郵便局】 01670-4-5576
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

編集後記

あとひと月を残して、今年も終わろうとしています。

今年は猛暑、豪雨、台風、地震と何と自然災害の多かったことか。そして、避難準備警報・避難勧告という言葉がこれほど耳にしたことは、今までにはなかったように思います。

一斉に鳴る携帯電話の緊急速報の音がうるさくて電源を切った。それで情報が届かず災害にあったということも聞きました。災害に慣れない人たちは、何度も伝えられる情報の重大さがわからず、「私は大丈夫、ここは大丈夫」という理解だったのだと思われます。

私たちのNPOが運営するグループホームにおいても、今年の災害が残した数々の教訓を生かし、一人の生活者として自らの命を守る術を身につけること。そのためには、どうすればいいかを普段から考えておく必要性を感じました。(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市円座町1124番地6

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955